

## 2015年度プロジェクト科目 関連事業開催報告

- ◆2015年4月 6日(月) 春学期SA/TA説明会
- ◆2015年5月11日(月) 春学期第1回SA/TA協議会
- ◆2015年7月13日(月) 春学期第2回SA/TA協議会

プロジェクト科目では、SA(スチューデント・アシスタント)もしくはTA(ティーチング・アシスタント)を各プロジェクトに1名配置しています。今年度の始動に向けて開講前に、SA/TA業務のガイドラインや、授業運営費などの諸手続き、活動報告書の提出方法についてなど、プロジェクト科目に特化したサポート体制についての説明会を実施しました。授業開始1ヶ月後に実施した第1回SA/TA協議会では、今後の活動方針などを共有する中で、学習支援者として留意すべき点などを確認しました。春学期末に開催された第2回目の協議会では、SA/TAの評価力向上のために具体的な事例をあげながら学習支援の改善点や修正点について情報共有を行いました。また、科目のテーマと実際の活動内容にずれが生じた場合、SA/TAとしてとるべき対処方法などについて、秋学期に向けての活発な議論がなされました。

### ◆2015年4月24日(金) 春学期学生担当者説明会

2015年度プロジェクト科目の学生リーダー、サプリーダー、会計担当者、クラスレポート担当者及び学生成果報告書担当者を対象に、説明会を開催しました。全プロジェクト共通の年間スケジュールの確認、企画書の書き方、情報発信を行う際の注意事項、授業運営費の出納や申請方法、学生成果報告書の作成要領および著作権に関する諸注意などを資料に基づいて説明しました。今年度は「アクティブ・ラーニングのためのアクティブ・シンキング」を支援するSNS型学習支援システムの試行運用を開始しており、共同開発の企業担当者からその使い方についての説明もなされました。

### ◆2015年6月26日(金) 春学期プロジェクト・リテラシー講習会

ポスターセッション形式で行われるプロジェクト科目成果報告会に向け、「伝えるちから ～ポスターセッション」と題し、パワープレイズ株式会社津村道治氏を講師に迎えて講習会を行いました。多くの履修生にとってポスターセッションは初めての体験であったため、ポスターレイアウトのポイント、文字フォントや写真やグラフの選び方、キャッチコピーの考え方などの基本的な技術からセッションを行う際の注意点まで、過去の成果報告会のポスターを使ったデモンストレーションを交えながら、具体的に示されました。また、後半は、チームに分かれてポスター作成とポスターセッションの実践演習を行い、履修生は、セッションで意図を伝えるツールとしてのポスターの役割や、ポスター作成の難しさを実感した様子でした。

- ◆2015年7月6日(月) 春学期学生懇談会
- ◆2015年8月1日(土) 春学期科目担当者・代表者懇談会

学生懇談会では各プロジェクト科目の履修生代表が一同に会し、春学期の活動について情報共有を行いました。現時点までの取り組み内容について各プロジェクトが報告した後、メンバー間の情報共有の手段について意見交換が行われました。参加した履修生にとっては他プロジェクトの活動を知るとともに、自身のプロジェクトを見つめなおす貴重な時間となりました。また、担当者・代表者懇談会では、まず、プロジェクト科目検討部会部長・山田和人教授から授業アンケートで抽出された意見についての回答説明があり、事務連絡、秋学期のスケジュール等の周知が行われました。その後、春学期の授業運営について各担当者・代表者から報告が行われ、「学生が意欲的に取り組むための環境づくり」という課題に基づいて、活発な議論が交わされました。

### ◆2015年7月26日(日) 春学期成果報告会

京田辺校地同志社ローム記念館にて、春学期成果報告会を開催し、春学期科目2クラスが最終報告、春学期・秋学期連結科目13クラスが中間報告を行いました。プロジェクトごとにブースに分かれて、ポスターセッション形式で半年間の活動成果について報告しました。当日はオープンキャンパスも開催されており、高校生や一般の方の参加も多く、約250名の参加者で終始会場は熱気にあふれていました。ポスターセッション終了後の表彰式では、学内外の審査員から講評・総評がありました。ポスターの完成度やセッションの技術は大変高く評価されましたが、その一方で、活動内容の充実度にばらつきがあること、固定観念にとらわれていて学生ならではの新しい発想が見えないなどの厳しい声もいただきました。これまでの振り返りと“気付き”を大切にしながら、秋学期に向けて活動の見直しや常識の殻を破った発想を期待しています。

- 最優秀賞: 京都が培ってきた文化産業の素材・技術のリデザインと発信 (今出川校地開講、春・秋連結科目)
- 優秀賞: テーマパークの利用者満足度向上に関する企画立案プロジェクト (京田辺校地開講、春学期開講科目)
- 特別賞: 絵本百花～最愛の1冊に出会うプロジェクト～ (今出川校地開講、春・秋連結科目)  
地域応援プロジェクト ～同志社から、スポーツの力で恩返し～ (京田辺校地開講、春・秋連結科目)



2015年度プロジェクト科目 春学期成果報告会の様子

PBL推進支援センターはPBLの実践校とのネットワークを構築し、PBLの教育効果や教育方法について研究することを目指しており、PBLをすでに導入している機関、今後導入を考えている機関のみならずとともにPBLの教育効果や教育方法について検討する場を提供しています。従来、全国の先進的な取組事例を紹介し、議論を深めてきましたが、今後は、同志社大学の学内において活発に展開されている取組事例を通して、学生の主体的な学びの可能性と課題についても考えていきたいと思っております。

## 同志社大学における主体的な学び —アクティブ・ラーニングとPBL—

同志社大学PBL推進支援センター長  
文学部教授 山田和人

同志社大学では、全学PBL調査を行い、2007年度には、正課・課外を問わず、15拠点でPBLが実施されていることを確認できた。その後、さらに各学部でさまざまな取組が行われ、それを遙かに上回る拠点で組織的にPBLが実施されている。そこで、PBL及びPBLに関連する学内の取組についても、PBL推進支援センター主催のPBL推進協議会(研究会)において取り上げて、その取組を学外にも紹介すると同時に、学内で展開されているPBLの多様な取組のネットワークを構築する可能性と課題について探究していきたいと構想している。

大学教育において、個人や研究室単位でのPBLは従来より多様な領域において実践されてきた。元来、PBLは主に看護医療系や理工系、情報系、社会学系の専門分野を中心に展開されてきたが、近年は教養教育における文系PBLに至るまで幅広い領域において導入されている。その背景として、文部科学省や中央教育審議会などが主導する多様な教育方法の提案がひろく教育機関に拡がりを見せているのだろう。そうした趨勢の中で、アクティブ・ラーニング型の科目を設置する大学が増加するとともに、PBL型の科目も幅広く開設されるようになった。これらの科目の導入が、組織的に取り組むことを前提にしており、大学・学部・学科などの組織的な運営、カリキュラム全体との整合性などが問われている。

PBL推進協議会としては、PBLの質的な向上を目指す特色ある全国の取組事例を中心に議論を重ねてきたが、PBLが、高次のアクティブ・ラーニングとして位置づけられるならば、学内のアクティブ・ラーニング型の科目についてもあわせて検討していく必要もある。アクティブ・ラーニングは、広義において学生の主体的学習・協働学習という側面を持っている。別の言い方をすれば学生の学習意欲を喚起する課題解決学習ととらえられる。そこではあらかじめ決められた課題に取り組む場合と、課題を学習者が設定する場合がある。PBLは後者であり、学生が自ら問題を発見し、その背景にある課題を適切に設定し、その解決のために集団的に取り組んでいく高次のアクティブ・ラーニングと言える。

その意味で、PBLの裾野を支えるプログラムとして、アクティブ・ラーニング型科目があるとも言える。いや、相互に補い合う関係にあると言えきかもしれない。そこで、同志社大学において実践されているアクティブ・ラーニング型プログラム、PBL型プログラムの実践事例を取り上げることで、幅広い主体的な学びのあり方を多層的にとらえ直すことができるのではないかと。また、発展段階にあるプログラムも多いものの、議論を通して、それぞれに今後の課題を見つける場が提供できれば、PBLの普及と発展を目指すセンターとして、学内外に広く貢献できると考えている。

### 山田センター長のつぶやき



同志社大学PBL推進支援センターの  
山田和人センター長によるコーナーです。

PBLは学生主体の学びの場である。最初からうまく行くはずがない。試行錯誤を繰り返して、徐々に成長していく。その成長を促す役割が担当者である。実際に行動し、プレイするのは学生自身だ。担当者は監督、学生が選手。達成感は学生たちのもの！ ファインプレイ・ラブプレイ・珍プレイあり！

～山田和人センター長 Twitterより抜粋～

### PBL教育フォーラム2015開催のご案内

PBL教育フォーラム2015「(質のよい)失敗から学ぶPBL」を開催します。学生の主体的な学びを目指すPBLにおいて、他大学の教員や学生による事例報告をもとに議論を深め、PBLに関わる全ての関係者の協働学習の場とします。是非ご参加ください。

日時: 2015年11月14日(土) 13:30～16:45  
会場: 同志社大学 今出川校地 良心館104番教室  
申込要(先着限定100名受付)

フォーラム詳細は下記PBL推進支援センターのホームページをご覧ください。

同志社大学PBL推進支援センター

# 同志社大学におけるPBLの取組み

同志社大学におけるプロジェクト型学習の萌芽は早い。2003年には課外学習型プロジェクト「ローム記念館プロジェクト」、学部正課科目「文学部特殊演習(プロジェクト科目)」が開設され、2006年には全学共通教養教育科目「プロジェクト科目」が設置されました。本学は正課授業・課外活動、専門教育・教養教育において、課題解決型PBL、チュートリアル型PBLなど多彩な取組を全学的に行なっているといえるでしょう。本学のPBLは、ローム記念館プロジェクト、文学部特殊演習(プロジェクト科目)が発足した第1期を揺籃期、教養科目「プロジェクト科目」が整備された第2期を成長期、そして、PBL推進支援センターによるPBL教育の方法論的整備と促進の時期を第3期発展期と位置づけています。さらには、PBLを高次アクティブ・ラーニングの教育方法として検証することも、今後、本センターが取り組む課題のひとつです。PBLが広く普及した今こそ、その整備と検証、情報と認識の共有は常に怠れない責務と考えます。改めて本学が取り組むPBL関連の多様な活動を紹介することで、PBLの理論研究と教育活動の実践の一助にしたいと考えます。

## 同志社大学政策学部におけるPBLの取組み

### 【取組概要】

同志社大学政策学部では、2004年の学部設立当初から少人数教育の一環としてPBL教育に取り組んできた。それが本格化したのは、2009年にPBL教育を柱としたプロジェクト「政策提案能力を養う理論と実践との交流教育」が、文部科学省の「質の高い大学教育プログラム(教育GP)」に採択されて以降である。2012年度からは、学部でPBL関連事務担当の助手を採用するとともに、PBL教育推進予算を組み、正課授業の一環として行う研究活動や演習形式の授業「アカデミック・スキル」などに対し財政的支援を行っている。



政策学部 教授 川口 章

### 【事例報告】

#### 「アカデミック・スキル2(伝達)国際社会に通じるコミュニケーション・スキルを身に付けよう」



政策学部 助教  
岡田 彩



政策学部PBL推進室 助手  
橋本 圭多

「アカデミック・スキル2(伝達)国際社会に通じるコミュニケーション・スキルを身に付けよう」は、「海外のオーディエンスに向けて、一番言いたいことが伝わるプレゼンテーションを『英語』でできるようにする」ことを目的とした、学部2年生対象の少人数科目です。履修者は、学期を通じた個人プロジェクトとして、関心のある政策課題を分析し、問題解決のための提言を導きます。そして、その主張を英語の「ポリシーメモ(ある政策の概要、背景、提言などを簡潔に記した短い文書)」にまとめ、口頭でのプレゼンテーションを行います。プロジェクトのテーマは、「中国における一人っ子政策の是非」から「東京一極集中化の解消」「ベリーズ・バリア・リーフの保全対策」まで、多岐に渡ります。授業では、プロジェクトに必要な知識として「説得力を持って主張を展開する議論の組み立て方」「英語で論理的な文章をまとめるコツ」「オーディエンスを惹き付ける英語でのプレゼンテーションのコツ」を学びます。

英語を教授言語とするこの授業では、学生の学習意欲を刺激し、自主的な学びを促進するため、留学生との協働を導入してきました。学内に拠点を持つ京都アメリカ大学コンソー



シアム(通称KCJS)の協力を得、合同授業や相互支援の機会を設けています。例えば、プロが作成した日本語の「ポリシーメモ」を英訳する作業を通じて、論理的な議論を展開する上での言語の違いを理解する合同授業、京都在住の職人に仕事への取り組み方をインタビューする取材プロジェクトなどを実施してきました。また、政策学部生の「ポリシーメモ」を留学生が添削したり、逆に留学生が日本語で取り組んでいるプロジェクトを政策学部生が支援する「ピア・エディティング」も行っています。

履修者からは、「英語でタスクを行うことの難しさを痛感した」「言語が完璧ではなくとも、内容は十分伝わることを実感できた」「留学生の日本語力に驚いた。自分も負けていけない!」「留学生の学習意欲の高さに刺激を受けた」「自分では考え付かないような質問を留学生がしていて、刺激的だった」などの学びが報告されています。

留学生との協働は、2013年度から開始しました。毎年改良を加えながら、学生の主体的な学びを引き出す工夫を試みています。海外に行かなくとも、学内に居ながらにして、国際感覚を身につけられることを体現する政策学部生の姿は、頼もしい限りです。



## 全学共通教養教育科目における取組み

2006年度から始まったPBLによる教養教育の実践である「プロジェクト科目」は、教員が一方向的に知識を伝授する講義スタイルとは異なり、地域社会や企業の方々から提案いただいたテーマについて、履修生自身が構想、計画し、ディスカッションを重ね、行動する実践型スタイルの授業です。全学共通教養教育科目であり、学部・学年の垣根を越えてチームとして共に活動し、プロジェクトを進行していきます。

### プロジェクト科目2015年度採択科目一覧

テーマ	開講期間	科目担当者	科目代表者
<b>京田辺校地</b>			
テーマパークの利用者満足度向上に関する企画立案プロジェクト	春	株式会社 ユー・エス・ジェイ 松尾 諭	理工学部 田中 達也
LOHASタウン実現プロジェクト	春・秋	株式会社 東洋設計事務所 齋藤 篤史	理工学部 千田 二郎
子供が喜びながら遊び学べる知育玩具の企画立案	春・秋	株式会社 タカラトミー 渡辺 公貴	生命医科学部 田中 和人
地域応援プロジェクト ～同志社から、スポーツの力で恩返し～	春・秋	高橋 仁美	スポーツ健康科学部 竹田 正樹
東洋医学で京田辺を健康にするプロジェクト	春・秋	帝京平成大学 岩 昌宏	生命医科学部 渡辺 好章
空き店舗を活用した地域活性化II -風が起すムーブメント-	春・秋	京田辺市役所 林 敢太	理工学部 下原 勝憲
<b>今出川校地</b>			
観光都市京都の新土産 ～世界に発信する新土産～	春	株式会社 美十 酒井 宏彰	商学部 大原 悟務
同大生"GLOCAL"プロジェクト ～国際協力と地域社会貢献	秋	公益社団法人 青年海外協力協会 河合 憲太	政策学部 岡田 彩
コミュニティをデザインする～家から始める居場所づくり～	秋	植田 元気	経済学部 山森 亮
絵本百花～最愛の1冊に出会うプロジェクト～	春・秋	上野 康治	理工学部 金田 重郎
ラジオで発信～若者と高齢者の音楽イベント制作	春・秋	大江 宮子	社会学部 金子 邦秀
京都の伝統織物をつなぐ～織物文化ビジネスプロジェクト～	春・秋	一般財団法人 日本伝統織物研究所 龍村 周	理工学部 大久保雅史
プロスポーツの集客・チケット販売の実践で学ぶマーケティング	春・秋	日下部大次郎	政策学部 川井 圭司
災害に強い地域循環型共生コミュニティの実現	春・秋	株式会社 京のちから 石井 雄一郎	政策学部 井上 恒男
京都発! 補助犬ガイドブック作成プロジェクト	春・秋	公益社団法人 関西盲導犬協会 久保 ますみ	政策学部 関根 千佳
京都が培ってきた文化産業の素材・技術のリデザインと発信	春・秋	COS KYOTO 株式会社 北林 功	文学部 山田 和人
「大学が運営するフィットネス」の在り方と地域連携について	春・秋	同志社エンタープライズ 志志館フィットネス 中西 学	商学部 百合野正博

### 卒業生からのメッセージ



福井 麻里子 さん

【プロフィール】  
2007年度「京都企業に共通する優秀なDNAを探る」プロジェクト科目履修生。2010年同志社大学社会学部教育文化学科を卒業。博報堂グループPR会社勤務、デジタルエージェンシー、シンガポールでの勤務経験を経て、シンガポールで起業。現在、シンガポールと京都に拠点をもち、グローバルブランディング&広報のコンサルティング会社であるAalto International Japan株式会社代表取締役を務め、京都企業をはじめとしてグローバル広報の支援、組織作り、アドバイスに携わっている。

#### 「素晴らしい出会いが、人生を創る」

ビジネスをテーマに、学部、学年を超えた仲間と学ぶプロジェクト形式の授業があると知って興味を持ち、大学2年生の春に受講しました。その時は、ただ社会を知りたいという想いで参加しました。

学部も学年も多様なメンバー13名が集まったプロジェクト科目は、京都の経営者を訪ねて京都企業の経営とは何かを考えていく内容でした。起業・経営などは自分とは無縁であると思っ



京都の経営者を訪ねたときの様子

いた私ですが、京セラなど、京都の素晴らしい企業の経営者の方々から直接お話を聞くうちに、京都の企業の魅力と、起業に興味を持つようになりました。

私は25歳のときに、海外で起業、そして今は2社を運営していますが、そのスピリットのルーツはこの授業であり、まさしく人生を変えた授業でした。

切磋琢磨しあえる仲間と、経営者との交流によって、様々な可能性を提示してくださった先生。

自分がどのような人として生きていきたいか、大学時代に、様々な人に刺激され、自分の進みたい道を自身に問い、考える機会を持つことはとても重要です。私も、プロジェクトメンバーのうち2名とは、現在、パートナーシップで仕事を一緒にするほどの仲であり、皆でプロジェクト科目を経験したからこそ、今の私の仕事仲間があるのだと思います。



### 「プロジェクト科目」の活動報告をご覧ください!

京都市営地下鉄烏丸線今出川駅の北改札口付近に設置されている展示スペースでは、2015年度プロジェクト科目春学期成果報告会のポスターセッションで使用したポスターなどを一部展示しています。今出川駅をご利用の際には、是非ご注目ください。また、プロジェクト科目のホームページでは、各プロジェクトの日々の活動の様子から成果の報告までを発信しています。2015年度も履修生からの活動報告が日々寄せられています。是非プロジェクト科目ホームページ内の「クラスレポート」をご覧ください。

詳細はプロジェクト科目のホームページをご覧ください。

[プロジェクト科目](#)